

平成23年度石川県社会教育委員の会議における協議のまとめ

1 協議題 「社会教育を推進するための関係団体の役割」～現状と今後のあり方～

2 会議の経過

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 第1回 平成23年 7月11日 (月) | ・子どもの体験活動の充実に関する取組について |
| 第2回 平成23年 9月 5日 (月) | ・子どもの規範意識の育成について |
| 第3回 平成23年11月 1日 (火) | ・子どもと地域住民の交流について |
| 第4回 平成24年 2月24日 (金) | ・協議のまとめ |

3 主な意見

- (1) 第1回 子どもの体験活動の充実に関する取組について (自然体験・ボランティア活動など)
- ① 地域の子ども会等では、木登り、川遊びなど、安全に配慮し、親の理解や学校との連携を得ながら、子どもたちに様々な障害を乗り越えさせる体験活動に取り組んでいる。
 - ② 自然体験のプログラムでは、計画された行事だけでなく、子どもたちの自主性にまかせる取り組みも大切である。
 - ③ 県や市では「いしかわ子ども自然学校」など様々なプログラムがあるが、参加に積極的な家庭と消極的な家庭に認識の格差があるのではないか。この格差をなくすことがPTAの役割にもあるのではないか。
 - ④ PTAのボランティア活動の一環としてゴミ拾い登山を行っている高校がある。
 - ⑤ 体験活動における子どもたち同士や大人との交流が豊かな人間性を育む。
- (2) 第2回 子どもの規範意識の育成について (少年非行・暴力行為・社会のルール・マナーなど)
- ① 公民館では、子どもに積極的に呼びかけや注意のできる大人づくりを目指し、学習会などにより啓発を図りたいと考えている。
 - ② 幼児教育では、友達との遊びや生活の中に、いろいろなルールがあり、お互いがルールを守ることで、友達も自分も楽しくなるということを通じて規範意識を育てている。
 - ③ 規範意識を育てるには短期間では困難であるが、働きかけを続けることで、自転車の二人乗りや服装の乱れは10年前に比べて少なくなった。
 - ④ 親(大人)の姿勢が子どもに与える影響は大きく、例えば、親(大人)が笑顔で子どもに接することの大切さなどが、よく婦人会等の会合で話題となる。
- (3) 第3回 子どもと地域住民の交流について (家庭教育支援・学校支援・伝統文化継承など)
- ① 青年団では、獅子舞や太鼓など伝統芸能継承について子どもと交流したり、学校の授業のゲストティーチャーになったりしている。こういった活動が、地域のつながりを作り、地域のリーダー育成になる。
 - ② 地域の行事に親子で参加することで、世代を超えたつながりができる。学校では築けない、いろいろな人とのかかわりが、子どもの「生きる力」を育むことになる。
 - ③ 地域活動に若い人が出てきてもらうことが課題である。行事を小中学生に手伝ってもらい、公民館のことを知ってもらうことも大切だと考えている。
 - ④ PTA活動に参加してもらうには、目的や役割分担、期間等を明確にすることが大切である。また、PTA活動は誰かのためということだけではなく、自分のためでもあるという考えも重要ではないか。
 - ⑤ 運動会など地域住民の交流行事の活性化について、本来は住民からの要望が望ましいが、行政からの仕掛けも大切ではないか。

4 意見のまとめ

学校の指導力や家庭の教育力を補うために、地域の教育力を高めるのが、社会教育関係団体の役割

社会教育関係団体は、子どもの健全育成について、様々な取り組みを行っており、家庭教育や学校教育だけでは不十分な面を補っている。例えば、体験活動では、子どもと大人の交流が、子どもの豊かな人間性を育み、地域の大人が模範を示すことが子どもの規範意識を育成するなど、地域での教育的効果は大きい。

各団体では、参加者の確保など苦慮する面もあるが、それらの活動が、住民相互のつながりを生み、また地域の教育力を高めている。今後、各団体相互及び行政との連携協力や地域住民の行事への参加促進などを通じて、その役割を高めることがますます重要となる。